市制60周年式典 盛大に

9月1日、枕崎市が市制を施行して60周年を迎え、9月6日、記念式典が市民会館で盛大に執り行われました。

オープニングでは、ピアノ、ギター、リコーダーによる「海山風」の演奏に合わせ、枕崎の自然や今昔写真、市民のたくさんの笑顔がスクリーンに映し出され、来場者は、これまでの枕崎の歴史を振り返るとともに、未来への希望に胸膨らむものでした。

瀬戸口市長の式辞の後、国会議員、県議会議員、市議会議長や、ブラジル枕崎会の永留秋人会長から祝辞をいただきました。また、ブラジル枕崎会は、市に35万円を寄付され、贈呈式が行われました。

市政功労者表彰では、138の個人や団体に感謝状が贈られました。（次ページ掲載）

作文・論文発表では、比志島遥さん（枕崎小6年）と上久保雄大君（枕崎中2年）の堂々とした立派な発表に、会場から大きな拍手が送られました。

式典のフィナーレは、参加者全員による市民歌大合唱で締めくくりました。

今回、式典の司会進行は、鹿児島水産高校3年の栗野渉太君と、枕崎高校2年の片平萌美さんの二人が担当し、希望に満ちた表情で堂々と大役を務めました。

また当日は、会場入口で枕崎写友会による「まくらざき今昔写真展」や国光公園では、食を考える会による「食育ワークショップ」などが催され、市民協働で式典を盛り上げました。

式典終了後には、記念アトラクションとして創作劇「60番目のまくら貝」が上演されました。市民一丸で60周年を祝う気持ちが前面に押し出されたすばらしい舞台となり、新たなる第一歩を踏み出すにふさわしい記念日となりました。（記念アトラクション関連10ページ）

①司会の高校生二人②ブラジル枕崎会 永留会長の祝辞③小学生作文発表の比志島さん④中学生論文発表の上久保君⑤表彰式の様子⑥来賓の方々

式辞（抜粋）

新たなスタートを誓う日に

枕崎市長 瀬戸口 嘉昭

▼平成21年9月1日、枕崎市は、市制施行60周年を迎えることができました。「古きをたずねて新しき知る」と申します。これまでの60年を振り返るとともに、新たなる歴史と発展の基点として、本日、枕崎市制60周年の記念式典を開催いたしました。

また、この経済不況の中、記念式典も華美を廃し、市民の協力をいただいて行うこととなりました。進行も、地元高校生二人に、生花は、市制の年生まれの「60歳会」の方々からの寄贈によるものです。

▼市制施行の昭和24年9月といいますと、大空襲による傷跡も生々しく、加えて相次ぐ台風災害など、苦境の中でありましたが、山之内梓町長を中心に、敢然と市制を施行しました。県下4番目の市の誕生でありました。

以来、先人たちの優れた先見性、不屈の自立精神、たゆまぬ努力、ふるさとを想う情熱で数々の苦難・難題を乗り越え、今日の枕崎を築き上げてきました。先人の方々の努力に深く敬意を表しますとともに、心から感謝を申し上げます。

▼さて、枕崎漁港は、全国2900余りある漁港の中で、13港だけしかない「特定第三種漁港」で、毎年、10万㌧以上の水揚げがあります。枕崎市漁協のブランド「枕崎ぶえん鰹」は、第45回全国農林水産祭で「内閣総理大臣賞」を受賞した本市の特産品の代表であります。

枕崎水産加工組合では、今年2月、本枯れ節が、財団法人 食品産業センターから「本場の本物」の認定を受けました。

▼晴れた日には、間近に見える三島村。その一つの黒島は、枕崎市民にとって忘れてはならない島であります。明治28年7月24日、突然の暴風に遭い、一瞬にして281艘、枕崎漁民411人を含む713人が遭難するという空前の海難事故が起こりました。「黒島流れ」であります。本市では、毎年、子どもたちや保護者による「少年の船」事業を実施し、遭難漁民の方々の慰霊と黒島の子どもたちとの交流を続けています。

この度、三島村と共同で、村営船「みしま」の航路を枕崎港まで伸ばすための実証運行が、今年度から三年間の計画で始まりました。本格運航となるよう努力いたします。

▼枕崎駅には、本土最南端の始発・終着駅として、魅力ある食材や風景などを求めて全国から多くの人々が訪れます。しかし、駅舎も無く、駅舎復活の要望が多くありました。そこで、市の事業として「枕崎駅前観光案内所」の建設を決め、先月、起工式を済ませました。

また、老朽化が進み、一日も早い改築が課題でありました学校給食センターも、本市単独で、平成23年度の完成を目指して立て替えるための手続きが進んでいます。

▼「さつま黒潮きばらん海枕崎港まつり」は、13万人の人出で賑わう南薩一の夏祭りです。40組2800人の総踊りや一万発の花火大会、その最後には、九州でただ一発の三尺玉大花火が人気を呼んでいます。

▼世界的な教育者で、学校法人玉川学園の創立者小原國芳先生は、桜山小学校高等科のご卒業です。先生は、わずか12歳の身で、久志の自宅から毎日、片道三里（12㌔）の険しい山道を越えて通学されました。

その燃えるような向学心と不屈の精神が忘れられつつある今、先生の記念碑を建立し、青少年教育の拠点としたいと考え、地元とも相談の上、先日、玉川学園を訪ね、理事長にお願いしましたところ、全額学園の負担で「小原國芳先生顕彰碑」が桜山小学校校庭に建立されることとなりました。完成の暁には、子どもたちとともに、先生の「学問の道」を辿り、ご苦労を偲ぶ計画がすでに動いています。

▼今後の大きな課題としては、更なる行財政改革の推進は当然として、南薩縦貫道の早期完成であります。南薩地域は、農・水産物、芋焼酎などの一大生産地でありますが、大消費地に通ずる高速・産業道路が無く、南薩地域の活性化に大きな支障となっています。私は、建設促進同盟の会長として南薩縦貫道の早期完成のために先頭に立って努力いたします。

▼「船乗りは、港を出た時から、その心はすでに、ふるさとにつながっている」と言いますが、本日の式典に東京・東海・近畿の枕崎会代表の方々、そして、遠くブラジルからも19名の方々が駆けつけてくださいました。心からのお礼と歓迎を申し上げます。

▼私たちは、今日の少子・高齢化や深刻な経済不況の中であればこそ、行政と議会・市民がしっかりと手を結び、建設的な実りある議論を尽くし、市の活性化と市民の福祉の向上を図っていかなければなりません。更に明るく、元気な枕崎市となるよう、懸命の努力をすることをお誓い申し上げ、市民や本日ご出席の皆様方のご健勝を祈念して、式辞といたします。

▲式辞を述べる瀬戸口市長

▲フィナーレの市民歌大合唱。来場者の心が一つになり、声高らかに希望の歌声を響かせ、市制60周年をみんなで祝いました。

市政功労者表彰

市政に尽力された138の個人・団体に

◎地方自治部門

有園勝成
有園喜盛
井手　昇
今給黎久大
今給黎　久
上園秀人
大園正信
篭原　修
草野一男
桑原典人
崎向エチ
佐多元次
鮫島正人
鮫島幸明
下村久雄
大工園　武
大工園博文
田野尻厚子
通山幸夫
中園　宏
福留京子
福元初則
藤田博信
前野和広
牧　信利
松山トミ子
山崎己代治
山崎良一
◎教育文化部門
精野慎一
有園洋一
伊藤博人
今給黎　満
岩下司郎
上釜いほ
遠藤　誠
小川勝徳
沖園　強
篭原憲男
小湊香一
崎向エチ
椎原久昭
白澤良一
園田清美
立神　堅
俵積田忍
中釜幹敬
福元周一郎
真茅　勉
牧野　功
眞茅美利
森　茂子
山神智子
◎社会福祉部門
篠原正行
（社）鹿児島県建築士会
南薩支部枕崎分会
濵崎敏雄
枕崎建設業組合
山元博子
◎産業経済部門
大茂健二郎
上木原満男
竹中一雄
立石健治郎
中釜正彌
畑野勝男
◎特別功労部門
ARTS
Lips
NPO法人LCL
RENS
SHE-LA（シェイラ）
朝田栄子
安倍鰹節株式会社
天達市雄（ブラジル枕崎会）
今給黎秀作
上釜芳明
大園和寛
小原　耕
折口市子
音訳ボランティア　ひだまり
加藤勝海
株式会社 風憩 セコロ
株式会社エフエム鹿児島
株式会社相模屋
株式会社ダイイチ
株式会社ホソイ食品
株式会社マルサヤ
株式会社ヤマサ佐藤商店
神山芳行
野村鶴子（茅野ツル子）
木浦信敏
漁岩
久木田弘子
桑原茂樹
劇団「ぶえん」
小泉武夫
薩摩酒造株式会社
38代式守伊之助山崎敏廣
市役所通り会
白澤玲子
新屋敷耕作
関　好明
瀬戸管理委員会
立秋水産株式会社
田中　勉
千葉　祐
ちゃんサネ（實吉国盛）
豊田久男
中崎　渚
永留秋人（ブラジル枕崎会）
南薩飛行クラブ
農事組合法人岩戸牧場
福岡工業大学野球部
枕崎医師会
枕崎駅を想う会
前山達郎
枕崎市漁業協同組合
まくらざき朝市出店者協議会
枕崎港ベカフェス実行委員会
枕崎校老人クラブ連合会
枕崎市駅前通り会
枕崎市塚花き生産者協会
枕崎少年少女合唱団
枕崎消防署野球部
枕崎水産加工業協同組合
枕崎千翔会
枕崎の食を考える会
枕崎火の神大鼓保存会
枕崎舞踊連合会
枕崎マリンコーラス
松田光志
枕崎パーモニネット（ドーク）委員会
枕崎ライオンズクラブ
丸勝物産株式会社
枕崎ロータリークラブ
港まつり実行委員会
森　松平
山口　静
森　一浩
森　信秀
吉村ゆう子